

○令和5年度 教育事業 「かみふっ子フレンドキャンプ」(R.2月10日(土)~11日(日))

令和5年度 国立大雪青少年交流の家教育事業

上富良野町の小学6年生対象

募集

かみふっ子 フレンドキャンプ

令和6年

2月10日(土)~11日(日) (1泊2日)

- 同じ中学校に進学する町内の6年生を対象とした交流事業です。
- 参加をご希望される方は、下記お申込フォームよりお申込みください。



来年のクラスメイトと仲良くなろう

主なプログラム

スポーツ交流・ダンス・クラフト等

お申込&アンケート

- ・申込期間：2024/1/16 9:00 ~ 1/31 17:00
- ・参加費：3,000円(参加費は当日ご持参ください。)
- ・参加希望者はアンケートへの回答をお願いします。
- ・詳細は裏面の開催要項をご覧ください。



独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立大雪青少年交流の家
National Taishetsu Youth Friendship Center

〒071-0235 北海道上川郡美瑛町字白金
電話：0166-94-3121
FAX：0166-94-3223
メール：taishetsu-suishinshitsu@niye.go.jp
担当者：佐藤岡・佐藤麻・花岡

◆目的

上富良野町内の小学校に通う6年生が、体験活動を通して交流を深めながら、中学校進学への準備や目標を立てるなど、進学に対する期待を高める機会とする。

◆参加実績(定員なし)

参加者 16名

- ・上富良野小学校 6名(男子2人、女子4人)
- ・上富良野西小学校 8名(男子5人、女子3人)
- ・上富良野東中小学校 2名(男子2名)

◆プログラム

【1日目】

①アイスブレイク・スポーツ交流(210分)

参加者がお互いを知るために、自己紹介シート作成して自己紹介をした。また、ジェスチャーゲームなどのコミュニケーション活動を通して友達作りを行った。スポーツ交流ではチームで作戦を考えて実践する中で他校の児童と仲を深めた。



②キャンプファイヤー(60分)

雪上キャンプファイヤーでは、同じ中学校に進学する仲間と一緒に歌ったり踊ったりする活動を通して、仲間としての一体感を高めた。活動の最後に中学校進学への決意を発表した。



③自由時間(120分)

1日を通して仲を深めた友達と、さらに仲を深めるために自由時間を設定した。部屋で話をしたり、一緒に入浴したり、体育館で運動したりすることで、参加者同士の仲を深めた。



【2日目】

④創作ダンス「ダンス・ダンス・ダンス」(90分)

講師からダンスのステップを学び、それを活用し、グループごとに曲に合わせてダンスの振り付けを考えた。グループで話し合っって振り付けを決め、練習後に全体の前で発表した。



⑤クラフト作成「木製カレンダーを作ろう」(90分)

参加者同士で交流しながら木製カレンダーを制作した。カレンダーを流用して時間割やパズルを作るなど、それぞれが創意工夫して作品を完成させていた。



⑥ふり返り(60分)

2日間を振り返りながら、事業の感想と中学校の目標を記入した。1つの模造紙に全員でメッセージを書いて、互いに交流をした。



◆事業運営・企画のポイント

- 参加者同士が交流できるように、余裕のある時間設定を行い、自由時間に参加者同士が交流できるようにした。
- 参加者同士が協力して活動できるように、話し合っって実践するような活動を多く取り入れた。
また、勝ち負けや上手い下手では無く、あくまで仲間作り・人間関係作りが目的であること最初に伝え、ねらいを意識しながら活動することができた。
- ジェスチャーゲームやダンスを行うことで、みんなの前で自己表現する活動を取り入れた。
- 参加者同士の交流・同じ中学校へ進学する仲間としての一体感を醸成するために、雪に親しみながら活動できるキャンプファイヤーを行った。

◆参加者の声(事業趣旨と照らし合わせ、ねらいと対応するものを記載する)

- 男女関係なくいろんな人と交流できた。仲良く話したり、一緒に考えたりして、とても楽しかった
- 他校の上富良野西小学校や上富良野東中学校の人たちと話せた。友達ができるかどうか不安だったけど、気が合う人がいて、新しい友達ができる。
- すぐ仲良くなれたんで中学校もいけるかな～って感じた。
- 友達と一緒に部屋に泊まって、みんなでおしゃべりしたり、談話室でおかしをたべたりとても楽しかった。

◆事業の成果

- ①他校の参加者との交流を中心としたプログラム構成としたため、中1ギャップの予防につなげることができた。
- ②1泊2日の活動を通して、ジュニアリーダーに興味を持つメンバーを増やすことができた。
- ③木製カレンダーづくりや模造紙メッセージによる交流を取り入れることで、参加者同士の思い出に残る活動にすることができた。